

# NMSH Topics 22

VOL.

October 2018

今月の

今月の院長のイチオシ

【 内分泌外科 】

幅広い内分泌疾患に対応

日本最多の内視鏡手術症例

リスクに応じた治療を提供

## 内視鏡手術の保険適用と拡大

### 患者さんの意思を尊重した医療

当科は主に甲状腺、副甲状腺および副腎の疾患を診療します。ホルモン分泌の過剰や不足による機能的疾患と、増加傾向にある甲状腺がんなど腫瘍の治療が中心です。

特徴の一つは、患者さんの体に優しい治療をめざして早くから内視鏡手術を取り入れていることです。副腎の腹腔鏡下手術は他の病院でも第一選択となっていますが、1998年に清水一雄名誉教授が世界に先駆けて内視鏡補助下頸部手術（VANS法）を開発した当科では、甲状腺疾患も可能な限り内視鏡下で手術し、その症例数は累計800例を超え日本最多です。VANS法手術は2016年に良性疾患に対し、2018年4月に悪性疾患に対して保険適用されました。当院では、転移、浸潤のない比較的小さな甲

状腺がんに対してもVANS法手術を行っています。甲状腺がんは若い女性にも少なくないため、頸の傷が目立たないこの治療はメリットが大きいと考えます。バセドウ病も、病状に応じてVANS法手術を行うことがあります。

一方で高リスク甲状腺がんに対しては基本的に手術で摘出し、できる限り副作用を抑えた放射性ヨウ素治療や化学療法を行います。最近では3種の分子標的薬を適切に使い分ける治療も加わりました。

検診で見つかることが多い甲状腺微小乳頭がんでは、私たちが行ってきた非手術経過観察の成果が、米国のガイドラインにも反映されました。その場合も、希望する患者さんには手術を行います。また、予後の悪い未分化がんの集学的治療にも注力しています。甲状腺がんのリスクに応じた幅広い治療の選択肢を提供し、患者さんの意思を尊重した医療を行っています。

2017年 診療実績

甲状腺疾患		症例数	(内視鏡)	副甲状腺疾患		症例数	(内視鏡)
甲状腺がん				原発性副甲状腺機能亢進症	35	0	
乳頭癌	130	24		腎性副甲状腺機能亢進症	0	0	
濾胞癌	7	3		小計	35	0	
髄様癌	4	0		副腎疾患		症例数	(内視鏡)
未分化癌	4	0		原発性アルドステロン症	2	2	
リンパ腫	8	0		クッシング症候群	1	1	
その他の悪性腫瘍(再発・二次例含む)	14	0		褐色細胞腫	5	4	
甲状腺良性疾患				その他	1	0	
良性結節(腺腫、腺腫様甲状腺腫)	69	30		小計	9	7	
バセドウ病	32	2		合計	316	68	
その他(機能性結節など)	4	2					
小計	272	61					



VANS手術後の傷痕